

漢字表記をすれば”天狗蝶”。まず標本写真をひと目みて何を感じられるだろうか？比較のために実際の大きさをテングチョウなみに小さくしたクジャクチョウを並べてみたが、わかるかな？チョウは胸部などにある複数の気門で呼吸し、顔面に鼻という器官はないのだが、テングチョウでは触角の基部から天狗の鼻のように目だって突出した部分がみられる。天狗は高い鼻が特徴で、テングチョウで鼻のように見える部分は、小さいながらもクジャクチョウに見える一対のバルピ：下唇鬚（かしんす：味を感じる感覚毛が密生した部分で口吻から吸い上げる液汁の食物としての適否を判定する感覚器）が長大に発達して2本が合わさるように突出したもので、テングチョウという命名は実にみごとだといえる。アメリカでも「鼻の蝶：The Snout Butterflies」と呼んでいるのが納得のいくところで、その第三紀層（6500-170 万年前）からこのチョウの仲間2種類の化石が出ていることから「生きた化石」ともいわれる古い起源のチョウである。



June 18, 1962 高知梶が森



Oct.29,2004 沖縄八重岳



80819 入笠山 クジャクチョウ

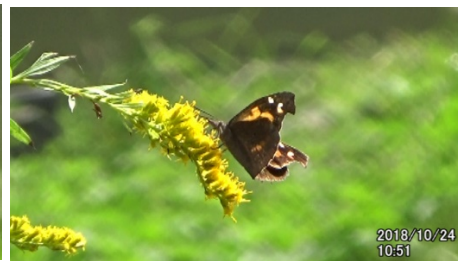
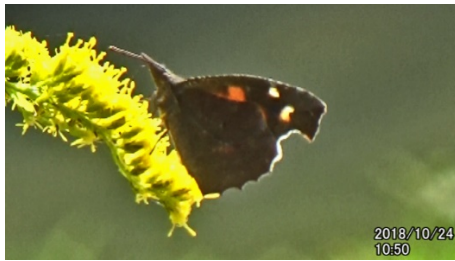
テングチョウはヒオドシチョウと同じく幼虫がエノキの葉っぱを食べて育つが、ヒオドシチョウが鹿児島北部を南限とするのと違って暖地性で、北海道では札幌などに記録があるものの今ではほとんど見られないという。奄美大島以南では沖縄八重岳産の画像に示すように前翅端部分で湾曲した翅縁の角度が90度以上と広く、それより北ではほぼ90度であるなど翅型に差があつて亜種として区別されている。幼虫を驚かすとシャクガなど蛾の幼虫がやるように糸を吐いて落下するというチョウには珍しい挙動が見られる。また、蛹が尾端を90度近くに強く屈曲させて葉っぱと平行の姿勢をとる習性がある、分類学上亜科が異なるイシガケチョウの蛹でも見られる特異な挙動である。なぜまっすぐに下垂しないのか、曲げることのメリットがあるとすれば

May 11,2009
兵庫夢前町産飼育May 10,2009
加古川市志方町

少しは目立たないかなと推定できるが真相は不明。ヒョウモンチョウ類にもギンボシヒョウモンなどこの習性をもつ種がいるそう。発生のピークとなる6月中旬、ときには大群となって地面の湿り気に群がる光景がみられ、かつて兵庫県佐用町で数百頭はいたと思える壮観な吸水集団に出会っている。その群れの中に踏み込むとまさにテングチョウの花吹雪。その日は民家の庭先にもうじゃうじゃと乱れ飛んでいて、住人のおばちゃんが「気持ちが悪いくらいよ」とあきれていた。参考：June 7, 2014 の記録；<https://www.youtube.com/watch?v=6AouOUFwqnE>

このテングチョウ、以前は、ヒオドシチョウのように盛夏に休眠したのち秋に再び活動し、すべてが成虫で越冬するものと思われていた。ところが6-7月に再び産卵をして2回発生したケー

スや、10 月に幼虫が観察された事実などから、第一化の個体がすべて 1 年間長生きするとはい



いきれなくなっており、興味ある研究課題として残る。

幼虫がエノキの葉を食べるチョウとしては、他に幼虫で越冬するゴマダラチョウやオオムラサキがいる。